

甲状腺外科草子 53

戦火を浴びた城：熊本

杉野 圭三

熊本城の雄大さは格別である。最初の訪問は50年以上前の修学旅行、悪ガキたちの恒例の大騒ぎのせいで記憶も曖昧である。最近、熊本大地震後に訪れる機会を得た。



熊本城 (1971,修学旅行) 同震災後 (2022)

加藤清正 (1562-1611) による築城は1607年とされ、堀、石垣、櫓などの配置の巧みさから難攻不落の城と言われた。



加藤清正(Wikipedia) 清正公銅像 (熊本城)

豊臣恩顧の大名清正は、あまりにも堅固な城を築いたが故、家康に警戒され毒殺されたとの噂がある。城内には清正手植えの大銀杏や太い木材を使用した闇(くらが)り通路などの遺構を見ることができる。



清正手植えの大銀杏 闇(くらが)り通路

この城は西南戦争で薩摩軍の包囲を受け、明治10年(1877)2月22日から4月14日の解放まで約2か月間の籠城を強いられることになった。熊本城の鎮台兵は3,300人、鎮台司令長官は土佐出身の谷干城少将(1837-1911)、対する薩摩軍は約13,000人であった。



谷干城司令官

谷干城銅像 (熊本城)

薩摩軍は当初容易に攻略できると思っていたらしいが、城兵の激しい抵抗と堅固な城に阻まれ、長期戦となった。熊本城を放置して小倉を攻める戦術も討議されたが、結果的に熊本城での足止めが政府軍に反攻の時間を与えることとなった。



熊本城攻防戦

最終的に薩摩軍は加藤清正に負けたとも言われた激しい約2か月間の攻防戦であった。

しかしこの堅城も2016年4月14日に発生した熊本地震(震度7)には勝てず、天守閣や石垣に大きな損傷を受けることとなった。



修復中の熊本城 (2022年4月)

懸命な工事により天守閣の外見は元に戻ったが、石垣などは現在も修復作業中であった。一日でも早い復興が望まれる。

晩春の熊本城で下手な一句。

同胞の血汐に曇る春の城

参考文献：戦況図解 西南戦争、サンエィ新書

(一甲状腺外科医の徒然なる随想)

2023年1月25日